

教育研究業績書

2025年05月07日

所属：環境共生学科

資格：教授

氏名：清水 夏樹

研究分野		研究内容のキーワード
農村計画学		地域振興，地域資源管理，農業遺産、地方行政計画，農村観光
学位		最終学歴
博士（農学）		東京大学大学院農学生命科学研究科博士後期課程修了
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 神戸大学「実践農学」（学部）	2020年4月1日から2023年3月31日	少人数で地域の課題解決に実践的に取り組むプロジェクト型実習。丹波篠山市内で自身が行う調査研究に基づき学生にテーマを提案し，学生が取り組みやすいプロジェクトを設計（2020年度は1件，2021年度は2件，2022年度は3件）。学生の課題発見，実践案の検討をゼミ形式で指導・支援した。また，実践案を受け入れる農家，地域組織，市役所や団体等との調整を行った。
2. 神戸大学「実践農学入門」（学部）	2020年4月1日から2023年3月31日	丹波篠山市内の農家においてグループで1ヶ月に一回程度、農業や農村生活を体験し，農業や農村に対する理解を深めると共に，現場における課題発見能力やコミュニケーションスキルを高めることを目的とする。各グループは，年間を通して体験し学んだことを元に地域課題の解決策を提案し，丹波篠山市内で住民に向けて報告する。本講義では，現地駐在教員として各年度の実習の設計を担当し，受け入れ農家の選択，農家への依頼や調整を行った上で，毎回の実習を運営（安全確認，進捗把握等）した。
3. 高崎健康福祉大学「里山学」（学部），農学部(非常勤講師)	2020年4月1日から2023年3月31日	2020年度はコロナ禍のため完全オンラインでの座学のみ。2021年度からは大学のある高崎市の植物園での樹木解説，樹木・植物の活用の仕方（染色）を体験する実習を取り入れた。里山と里山が提供する多様な機能について，産業，生活文化，環境等の側面から解説。実習での体験にもとづいて里山の魅力を伝えるグループワークも行った。
4. 北里大学獣医学部「環境経済学（2016年度は全15回、2017年度は全8回）」（学部）（非常勤講師）	2016年4月1日から2020年3月31日	環境経済学の基礎理論および環境の経済評価の方法を講義するとともに，持続的な環境と観光の関係性について多くの事例を挙げ，実践的な参画の仕方を学生自らが考える機会をもつ講義とした。講義の中で学生が回答したミニレポートの結果を次回の講義の教材にするなどインタラクティブな講義を行い，専門外の学生が関心をもてる内容とした。
5. 京都大学「森里海連環の理論と実践」（実習を含む集中講義）（大学院，地球環境学舎・学舎）	2014年4月1日から2018年3月31日	90分の1回の講義と実習の内容企画調整，実習全行程を担当。滋賀県近江八幡市の西の湖と琵琶湖エリアを対象とし，森里海連環学にかかわる水、生物、産業、歴史文化について専門家から講義を受け，実習で測定や調査を行う。この中で農業と人間生活，「里」の環境を活かしたツーリズムについて講義を行い，現地実習で体験できるよう現地との企画調整と実施監督を行った。
6. 京都大学「環境保全の理念と実践（Ideas and Practices for Environmental Conservation）」（大学院）農学研究科地域環境科学専攻	2013年4月1日～2020年3月31日	環境はなぜ保全しなければならないのか，理想的な環境保全とはどのような形なのか，誰がどのように環境保全活動に取り組むのかを論じる。外国人留学生も出席するため，英語での講義。講義でデータ等を示し，環境保全イベントやツアー企画をグループワークで議論するアクティブラーニングを一部採用。
7. 京都大学「多様性保全の法政策（Law and Policy for Conservation of Bio/Cultural Diversity）」（大学院），農学研究科地域環境科学専攻	2013年4月1日～2020年3月31日	生物多様性保全のための国際条約や各国の法と施策、自治体レベルの保全戦略および世界文化遺産などの文化的多様性の保全政策について論じる。外国人留学生も出席するため，英語での講義。各受講者が関心をもつ世界遺産などについてデータを持ち寄り議論するア

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
8. 京都大学「森里海連環学」（1講義90分、前期15回のうち1回を分担、2016年度からは「森里海連環学Ⅰ」と改称し、1講義90分、前期15回のうち3回分を分担）、全学共通科目（学部）	2013年4月1日～2020年3月31日	クティブラーニングを一部採用。 全学の学部生を対象として、農山村地域の活性化と森里海連環学の関係について関心をもってもらうことを第一にした講義。環境と社会、経済の関連性について解説し、どの学部にも所属している学生にとっても、森里海のつながりが「自分ごと」になることを目指した。
9. 京都大学「森里海国際貢献学」（大学院）、森里海連環学教育プログラム独自科目（プログラム必修科目）	2013年4月1日から2020年3月31日	通年のテーマ別グループゼミで毎年12～15名が参加した。森里海連環学に関わるテーマを各学生が選択し、各自の研究・インターンシップ計画や進捗状況、実施報告をプレゼンテーションし、内容についてディスカッションを進めながら指導。英語での講義で、半数は留学生。
10. 江戸川大学「農村地域デザイン論」（学部）、社会学部ライフデザイン学科（非常勤講師）	2005年4月1日～2011年3月31日	農村や都市の成り立ち、自然環境と人の生活や産業の関わりについて事例を紹介しながら、地域活性化や産業振興、都市農村交流について解説。講義シリーズの最初と最後に「農村に対するイメージ」を問う意識調査を行い、農村について学ぶことで農村へのまなざしが変わることを体感。意識調査の活用の仕方についても解説。
2 作成した教科書、教材		
1. ＜シリーズ地域環境工学＞農村地域計画学	2020年4月	渡邊紹裕，星野敏，清水夏樹編著 大学で地域環境工学や農村計画を学ぶ学生を対象とした教科書として関連する分野の研究者が分担執筆。編者としては構成、執筆者選定及び編集を担当。第7章の「都市農村交流と農村ツーリズム」を執筆し、活性化策として農村にツーリズムが導入された背景や変化、近年の動向を解説し、農村ツーリズムの意義と今後の課題を論じた。
2. Connectivity of Hills、Humans and Oceans、Challenge to Improvement of Watershed and Coastal Environment	2014年3月	Natsuki Shimizu, Ryunosuke Tateno, Akihide Kasai, Hiroshi Mukai and Yoh Yamashita(ed.) 京都大学森里海連環学教育プログラム開講に当たって制作した森里海連環学の解説のための英文教科書(京都大学出版会、pp.1-283)。文系理系の融合を図る新しい学問分野であるため、広い専門分野をカバーできることを活かして構成・各著者への原稿依頼および編集を担当。また、農村計画学専門家として、Chapter 3(1) Definition of the sato およびChapter 3(5) The connectivity of hills, humans and oceans in the satoを分担執筆。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 大学教員・大学院生・大学生の研究フィールド、ゼミ等の活動フィールドのコーディネート	2023年4月1日～2025年3月31日	丹波篠山市市役所職員として、大学教員・学生個人やゼミ単位で寄せられる市内での研究調査・活動の調整を行った。立命館大学・京都工芸繊維大学（灰小屋：草木と土を焼いて有機質肥料を作る小屋に関する調査）、関西学院大学（農村地域活性化、自転車交通）、武庫川女子大学（食文化）など、神戸大学以外の大学の研究活動のニーズを把握し、地域の団体や研究フィールドをコーディネートした。
4 その他		
1. 授業外における学生支援（丹波篠山市）	2023年4月～2025年3月	研究経験をもとに、学生のフィールド調査やアンケート調査についてアドバイスするとともに、実施にむけて地域との調整をおこなった。また、学生がボランティアで地域のお祭りに参加する仕組み（地域との調整、参加者募集、事前レクチャー、活動割り振り等）をつくった。
2. 授業外における学生支援（神戸大学）	2020年4月～2023年3月	丹波篠山市で活動する学生サークルの現地での活動、実践アイデアの実施を支援するとともに、新たなサークルの立ち上げについて地域の方との調整を行った。国際農業サークルAGLOCについては、サークル顧問もつ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
3. 国立台湾大学生物資源農學院，生物業傳播發展學系 現地実習講義「近江八幡で考える森里海連環の理論と実践」	2018年11月30日	とめた。 また、自宅の2階をフィールドワークを行う学生のための無料シェアハウスとして開放。2021、2022年度の2年間で35名が利用。 ラコリーナ近江八幡（滋賀県近江八幡市）において、
4. 京都大学授業体験「日本の農村地域の活性化」	2018年7月9日～2018年7月13日	国立台湾大学が京都大学の事例をもとに開設した「森里海連環学」の講義の実習を行った。 NP0法人インターナショナルコミュニティー倶楽部が主催する中国・江漢大学から来日した大学生に対する京都大学授業体験。日本の農村地域の現状と課題，地域活性化方策について紹介。
5. 京都大学授業体験「農村地域の活性化」	2017年2月9日	NP0法人インターナショナルコミュニティー倶楽部が主催する中国・上海交通大学，華中科技大学，四川メディア学院から来日した大学生に対する京都大学授業体験。農村計画学に基づく農村地域活性化について紹介。
6. 授業外における学生支援（京都大学）	2012年4月～2019年3月	担当する研究室だけでなく，他研究室，他学部からも学生の研究相談とくに調査フィールドの相談があれば対応し，自身のフィールド調査に学生を同行したり，共同調査を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 丹波篠山市ふるさとの森づくり構想改定委員会	2024年5月15日～2025年3月31日	平成27年4月から施行した「丹波篠山市ふるさとの森づくり条例」にもとづく「丹波篠山市ふるさとの森づくり構想」の改訂に対し、指導、助言を行う。
2. 兵庫県「豊かなふるさとづくり推進委員会」委員	2024年4月1日～現在	国の中山間地域等直接支払交付金の交付状況の点検、対象農用地の指定の評価、中山間地域総合振興対策等について検討する。
3. 青森県「農山漁村」地域経営事業実務者向け研修会講師	2023年11月20日	（青森市ウェディングプラザアラスカ）青森県管内市町村、県民局、中間支援組織において地域経営、農村づくり、農業振興を担当する実務者を対象として、丹波篠山市における事例（地域計画、オーガニックビレッジ宣言）を紹介し、地域経営における課題とヒントを解説した。
4. 2027年国際園芸博覧会政府出展計画検討会（農林水産省）	2022年12月19日～2023年3月31日	2027年度に開催予定の国際園芸博覧会において、農林水産省と国土交通省が検討する日本国政府出展の内容を検討した。
5. 福住重要伝統的建造物群保存地区選定10周年記念フォーラムパネルディスカッションコーディネーター	2022年11月23日	丹波篠山市福住伝統的建造物群保存地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されて10周年の記念フォーラムにおいて、専門家、地域住民を交えて行われたパネルディスカッションのコーディネーターを務めた。
6. 丹波篠山市自治基本条例検証委員会	2022年9月7日～2023年3月31日	学識経験者として、丹波篠山市自治基本条例の見直しに係る検証を行った。
7. 兵庫県立篠山鳳鳴高等学校普通科改革における新学科設置事業における運営指導委員会委員	2022年7月14日～2023年3月31日	篠山鳳鳴高等学校が独自に設置する「STEAM探求科」を設置し独自の特色・魅力ある教育を実現するために、コンソーシアム構築支援、STEAM教育のカリキュラム開発と評価方法、校内組織の整備、中学校等への周知・広報に関する助言を行った。
8. 丹波篠山市「過疎地域持続的発展計画」策定アドバイザー	2022年6月1日～2023年3月31日	丹波篠山市の過疎地域持続的発展計画及びその策定過程へのアドバイスを行った。
9. シリ丹バレー推進協議会幹事	2022年6月～現在	丹波地域の課題解決と経済発展、地域活性化を推進するため、地域内外の産官学民が連携し、新たな技術やしくみを構築するなどの取組を推進する。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
10. 丹波篠山市「ワクワク農村未来プラン」推進アドバイザー	2022年4月1日～2023年3月31日	市が進める「ワクワク農村未来プラン」（集落を単位とした将来に向けた取組）の策定・実施に向けて、市職員・地域住民と共にアイデアを具体化し実践するための活動のアドバイスをした。
11. 丹波篠山市「王地山公園ささやま荘」あり方検討会委員	2021年12月13日～2022年3月31日	休館している「王地山公園ささやま荘」の今後の在り方（利活用、廃止）について、学識経験者として検討、助言を行った。
12. 篠山イノベーターズスクール講師	2021年7月17日～2022年12月18日	地域課題の解決のために主体的・自律的な活動を行うことを支援し、地域社会の公益の発展に寄与することを目的として設立・運営される篠山イノベーターズスクールにおいて、地域密着型プロジェクト実践講座を実施した。
13. 三田市農業基本計画懇話会委員	2021年6月1日～2022年3月31日	学識経験者として、三田市農業基本計画懇話会の委員及び分科会での座長として議論を進めた。また、2023年3月18日には、市民に新たな農業基本計画を紹介するフォーラムを企画・開催した。
14. 食都神戸関連事業運営業務に関する選定会議委員	2021年4月9日～2021年4月14日	食都神戸関連事業運営業務委託に関し、受託事業者の審査に当たって、学識経験者として専門的な見地から意見を述べ、助言した。
15. 兵庫県農林水産政策審議会委員	2021年4月1日～2023年11月21日	兵庫県の農林水産業及び農山漁村の進行のための基本的事項や農林水産政策に関する重要事項の調査審議を行った。
16. 丹波篠山市農業振興地域整備促進等協議会委員	2021年4月1日～2023年3月31日	丹波篠山市農業振興地域整備促進等協議会において農業振興地域の整備に関する法律に基づき、丹波篠山市の農業振興地域整備計画の変更案件を審議した。
17. 丹波篠山市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員	2021年4月1日～2023年3月31日	丹波篠山市内の伝統的建造物群保存地区の保存にかかる重要事項についての調査および審議を行った。
18. 丹波篠山市文化財保護審議会委員	2021年4月1日～2023年3月31日	丹波篠山市文化財保護条例に基づき、文化財の保存、活用の促進や文化財保護行政に対し助言を行った。
19. 丹波新地域ビジョン検討委員会(副委員長)	2020年7月29日～2022年3月31日	丹波新地域ビジョンの策定に係る検討を行った。
20. 丹波篠山市まちづくり審議会委員	2020年7月1日～2022年6月30日	丹波篠山市における土地利用計画、開発行為及び景観形成に関する事項について調査審議した。
21. 丹波篠山市「ワクワク農村未来プラン」策定アドバイザー	2020年6月10日～2023年3月31日	集落の維持と発展のビジョンを描く「ワクワク農村未来プラン」の策定のための会議において、学識経験者として指導助言を行うとともに、地域集落等へのヒアリング調査を行った。
22. 兵庫県立篠山鳳鳴高等学校高大接続改革推進事業（学力向上モデル校事業）運営指導委員会委員	2020年5月31日～2024年3月31日	地方の伝統的な県立高校に期待される役割を果たすために兵庫県が指定したモデル校として、論理的思考力や問題解決能力等、大学が求める学力を身に付ける発展的高大接続プログラムを運営するための検討を行った。
23. 京大オリジナル株式会社主催、京大SDG s 研究会第3回「地域社会からみたSDG s」講義「地域社会課題の解決に向けた農村計画学的アプローチ」	2019年12月26日	京都大学総合研究5号館(京都市左京区)において、農山村地域をとりのこさないためにどのようなアプローチが必要かを、研究実践例をもとに紹介、解説した。
24. 株式会社古川ちいきの総合研究所主催 大阪・経営実践研究会、講演「大学の目指す地域連携の実態と課題」	2019年12月21日	サムティフェイム新大阪(大阪市淀川区)において、京都大学森里海連環学教育研究ユニットが進める地域連携型プロジェクトについて紹介した。
25. 食料・農業・農村審議会臨時委員	2019年7月30日～現在	「食料・農業・農村政策審議会 農業農村振興整備部会」に出席し意見を述べる。
26. 電通みらい塾 電通×京大SDG s シンポジウム「教えて京大！ SDGsの17の目標ってどうということ？」	2019年7月25日	大阪科学技術センターにて開催されたシンポジウムにおいて、SDGsの17の目標をキーワードにショートプレゼンテーションと研究者同士のJAMセッションを行った。「森里海をつなぐ地域づくり～住みがいと働きがい～」と題してGoal8「働きがいも経済成長も」を解説した。
27. 招待講演(基調講演)，“Japan’s Current Policies for Empowering Women in Agriculture”	2019年7月17日	Ministry of Agriculture, Food and Rural Affairs, KOREA and FAO KOREA主催, International Symposium in Commemoration of Rural Women Policy Team, AT Center Seoul

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
28. 京都府農林水産部「農・観」連携地域コミュニティ 応援事業有識者会議委員	2019年5月10日～2020年3月 31日	韓国政府が主催する農村女性活躍に向けたシンポジウ ムで、日本の事例を紹介した、 農業農村資源を観光に活用する「農・観」連携地域コ ミュニティ応援事業の採択に当たって、自治体の応募 内容の評価やアドバイスを行った。
29. 京都大学フィールド科学教育研究センター主催、講 演会「森と川と海がはぐくむ有田川のアマゴ」講演 「有田川からはじまる地域の元気ー地域活性化のヒ ントー」	2018年5月13日	清水文化センター（和歌山県有田川町）にて開催され た表記講演会において、農村計画学的アプローチから 地域活性化について講演した。
30. 京丹波町バイオマス産業都市構想推進委員会 委員 長	2018年4月1日～2023年3月25 日	京都府船井郡京丹波町が策定したバイオマス産業都市 構想の実践に当たり、方向性を検討し、進捗を審議し た。
31. 近畿農政局農村振興関係交付金交付先選定審査委員 会外部審査委員	2017年4月3日～2020年3月31 日	農泊事業などを中心とした交付金事業の応募団体の選 定審査を行った。
32. 国東半島宇佐地域世界農業遺産認定3周年記念・世界 農業遺産シンポジウム、パネルディスカッションパ ネリスト	2016年11月1日	アスト国東（大分県国東市）FAOにより世界農業遺産に 認定された国東半島宇佐地域について、森里海連環学 の視点から農林水産業循環の価値を発言。パネリスト は女性のみで女性の視点からのディスカッションを 行った。
33. セミナー基調講演「バイオマスエネルギーを活用し た地域活性化について」	2016年3月4日	大阪合同庁舎（大阪府大阪市）農林水産省近畿農政局 が開催したバイオマスエネルギーを活用した地域活性 化セミナーにおいて、社会人・行政担当者に向けた基 調講演を行った。
34. 京丹波町バイオマス産業都市構想策定委員会 委員 長	2015年11月12日～2017年11月 10日	京都府船井郡京丹波町のバイオマス産業都市構想を策 定した。
35. 国立環境研究所・環境自治体会議「バイオマス地域 循環の構築に関する実務者向けガイド」策定アドバ イザリー会合委員	2015年4月10日～2015年12月 25日	国立環境研究所・環境自治体会議が作成する表記ガイ ドについて、助言を行った。
36. 京丹波町木質バイオマスエネルギー活用推進委員会 委員長	2014年11月25日～2017年11月 24日	京都府船井郡京丹波町が計画した木質バイオマスエネ ルギー活用施設の計画・設計を審議した。
37. NP0法人シニア自然大学校研究部共通講座講師	2014年7月4日	福島区民センター（大阪府大阪市）「地域の資源を活 かす～バイオマスに注目して～」と題し、シニア自然 大学校の開催する講義（約120名が出席）において、地 域資源とは何か、「里山資本主義」に基づくその活用 の仕方、産業観光としてのバイオマスツアーの事例紹 介と提案を行った。
38. 農林水産省近畿農政局「農地等活用ボランティア情 報交換会」講師	2013年10月2日	泉南府民センター（大阪府泉南市）「大学が行う農地 等活用ボランティアの役割と課題」と題して、一般・ 行政担当者を対象とした講演を行った。
39. （一財）日本有機資源協会バイオマス活用アドバイ ザー養成研修講師	2013年8月22日	馬事畜産会館（東京都中央区）農林水産省事業として 日本有機資源協会が開催するバイオマスタウンアドバ イザー養成研修にて2ヶ年にわたり実務上必要な技術や 知識、調査方法および計画作成方法について講義。実 際のデータを用いた演習も担当。
40. (株)技術情報センター主催セミナー「各種バイオマ ス発電システムの経済性評価と技術動向」講師	2013年7月18日	天満橋ドーンセンター（大阪府大阪市）メタン発酵プ ラントの経済性評価などエネルギー収支・経済性・環 境負荷からみたバイオマス利活用について技術者を対 象に講義を行った。
41. 近畿農政局農村振興情報整備・分析調査現地調査有 識者	2012年11月30日～2012年12月 31日	近畿農政局が管轄する農村振興事業に関し現地調査に 同行し、助言を行った。
42. 財団法人福井県産業廃棄物処理公社・下水汚泥の固 形燃料化研究会委員	2012年9月26日～2013年3月 31日	下水汚泥を固形燃料として再利用するための技術・仕 組みを検討する研究会において、学識経験者として助 言を行った。
43. 埼玉県見沼田圃土地利用審査会委員	2011年9月27日～2013年9月 26日	伝統的な土地利用が残されている埼玉県見沼田圃地域 において土地利用計画等への変更申請について審議 （該当審議事項なしのため、開催されず）。
44. バイオマスタウンアドバイザー育成テキスト作成(日 本有機資源協会：農林水産省平成22年度国産バイオ 燃料等普及促進事業)	2011年3月発行	pp.375-394 バイオマス賦存量の算定方法(演習)（第 5章2）を担当執筆。農林水産省事業として日本有機 資源協会が開催するバイオマスタウンアドバイザー養 成研修のテキストを作成した。同講師も務め、実務に

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
45. 平成22年度農山漁村6次産業化事業に係るバイオマス資源活用促進事業「課題提案書選定審査」委員(農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課)	2010年4月28日~2011年3月31日	必要な有機性資源(バイオマス)の資源量や有効活用利用量の具体的な調査方法や見積もり方法について解説。 表記事業における応募団体の課題提案書を審議し、事業実施候補者を選定した。
46. 埼玉県景観審議会委員	2009年9月~2013年9月	埼玉県知事の諮問に応じ、景観形成及び屋外広告物に関する重要事項を調査審議した。
47. 宮城県大崎市バイオマス利活用推進委員会講師(アドバイザー)	2009年6月~2012年3月	宮城県大崎市が策定したバイオマスタウン構想に基づきバイオマス利活用推進のための助言を行った。
48. 平成21年度農林水産省環境バイオマス総合対策推進事業(農林水産省大臣官房バイオマス政策課)企画提案書審査委員会委員	2009年4月~2010年3月	農林水産省が実施する環境バイオマス総合対策推進事業の実施事業者を決定するための企画提案書の審査を行った。
49. 宮城県大崎市バイオマスタウン構想策定検討会議委員	2008年11月~2009年3月	宮城県大崎市のバイオマスタウン構想策定において、バイオマス賦存量調査や利活用方法についての助言を行った。
50. 社団法人日本有機資源協会バイオマスタウン推進委員会	2008年4月~2009年3月	バイオマス利活用を進めるためのバイオマスタウンづくり(構想策定、利活用計画策定)の支援に関する委員会における助言をした。
51. 平成20年度農林水産省環境バイオマス総合対策推進事業(農林水産省大臣官房バイオマス政策課)企画提案書審査委員会委員	2008年4月~2009年3月	農林水産省が実施する環境バイオマス総合対策推進事業の実施事業者を決定するための企画提案書の審査を行った。
52. (財)日本農業土木総合研究所(現・一般社団法人日本水土総合研究所) 物質循環モデル作成委員会分科会委員	2002年4月~2005年3月	農業・畜産業を中心とした地域物質循環モデル開発に携わり、モデル利用者のためのデータ収集方法の検討および事例モデル作成を担当した。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 「大学の森」が見た森と里の再生学；京都芦生・美山での挑戦	共	2024年1月20日発行	京都大学学術出版会	京都大学の研究林である芦生研究林をフィールドとして、複数の分野の研究者が相互に協働して、また地域住民との協働・共創による地域課題解決を目指して行った研究成果をまとめたもの。第6章 地域が目指すツーリズムの姿を探る (pp.271-301) の執筆を担当。3年にわたって行った来訪者へのアンケート調査結果から、地域にとって望ましい観光の在り方を探った。
2. 農村地域計画学	共	2020年4月5日初版第1刷	朝倉書店	渡邊紹裕，星野敏，清水夏樹編著 大学で地域環境工学や農村計画を学ぶ学生を対象とした教科書として関連する分野の研究者が分担執筆。編者としては構成、執筆者選定及び編集を担当。第7章 都市農村交流と農村ツーリズム (pp.84-96) を執筆し、活性化策として農村にツーリズムが導入された背景や変化、近年の動向を解説し、農村ツーリズムの意義と今後の課題を論じた。
3. The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration, Insights and Assessment after 5 Years	共	2017年	Springer	Vicente Santiago-Fandiño, Shinji Sato, Norio Maki and Kanako Iuchi(ed.), Hattori, Toshihiro; Shimizu, Natsuki; Akemi Saito, The Regional Structure and Farming Resumption in a Tsunami-Affected Community: The Case Studies of Otomo and Hirota Districts in Rikuzentakata City: Iwate Prefectureの分担執筆。東日本大震災で津波被害を受けた陸前高田市の小本地区、広田半島で農地復旧にあたり、農業担い手組織がどのように形成されたかを現地調査を元に解説した。
4. 最新農業技術土壌施肥Vol.7	共	2015年	農山漁村文化協会	「環境保全型農業の是々非々：バイオマス活用の個別経営と地域への効果」(pp.131-139) を分担執筆
5. バイオマス活用ハンドブック	共	2014年	環境新聞社	「第2編バイオマスの賦存量・利用可能量の把握」第1~5章(pp.65-211) の執筆および第2編の責任編集を担当した。様々なバイオマス(有機性資源)の地域内での賦存量や利用可能量の見積方法、算出方法を解説した。
6. アグリ・バイオマスタウン構築へのプロ	共	2007年発行	農林水産バイオリサイクル研究「シ	「やまだバイオマスタウン構想」へのアプローチバイオマスがつむぐ人と空と大地の環ー (pp.108-113, 第5章アグリ・バイオマスタ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
ローグ 7. バイオマス利活用システムの設計と評価	共	2006年発行	STEM実用化千葉ユニット」 農林水産バイオリサイクル研究「システム化サブチーム」	ウンの構築に向けて）を清水夏樹・柚山義人で共同執筆。バイオマス利活用の実証試験プラントを設置した千葉県旧山田町におけるバイオマス利活用計画の検討過程を紹介した。 全体の編集事務局および「バイオマス利活用を促進するための組織の連携」（pp.135-143）を分担担当。
2 学位論文				
1. 中山間地域における農村基盤の持続的管理のための条件整備	単	2002年3月29日	博農第2384号，東京大学	国内の中山間地域を対象として，生活・生産活動を継続するための物理的および社会的な地域資源（農村基盤）を持続的に管理するための条件と地域特性に応じた管理方式を明らかにした。平均傾斜と都市までの時間距離により中山間地域の特性が規定されると仮定し，対象とした1753市町村を3類型に分け，統計データ情報をもとに各類型の特性を表した。生産/生活およびそれぞれの物理的/社会的基盤，管理の全てに作用する人資源の5つの要素から成る農村基盤管理の基本形を定義し，各類型の特性と照合して，類型別の農村基盤管理方式を構築した。これらの管理方式を検証するために全国20箇所で現地調査を行い，解決すべき課題や支援方法を提案した。
3 学術論文				
1. Tourists' attitude affecting consumption behavior for sustainable Satoyama Tourism: A comparison between domestic and international tourists (査読付)	共	2020年	IOP Conference Series: Earth and Environmental Science, Volume 501, The 4th International Symposium of Sustainable Landscape Development 10 October 2019, Bogor, Indonesia	A F Fithriyah, N Shimizu, S Hoshino and K Onitsuka 近年の訪日観光客の増加をうけ，地域活性化および農村景観保全の一方策として観光産業に取り組んできた京都府南丹市美山の北村（かやぶきの里）を対象として，外国人観光客と日本人観光客の観光における消費行動の差をアンケート調査をもとに分析した。滞在中の消費額に大きな差はなかったものの，属性や満足度，事前の期待，さらに土産物の嗜好や設定されている観光サービスの価格への支払意思が異なっていた。
2. 訪日客に対する地域住民の歓迎意識に関する研究－異文化受容意識とオーバーツーリズムに着目して（査読付）	共	2019年	農村計画学会誌，28巻論文特集号，pp.187-194	張 明軍・包 薩日娜・星野 敏・鬼塚健一郎・清水夏樹 外国人観光客に対してホスト側である地域住民が歓迎的な態度で迎えることができる意識（訪日客歓迎意識）と住民の異文化に対する意識の規定要因を明らかにした。京都府伊根町を対象として，住民の地域への愛着，観光への評価，現状の生活への満足度，オーバーツーリズムへの脅威などをアンケート調査し，異文化を受け入れる意識の醸成が重要であることがわかった。
3. 農家経営におけるマルシェ出店の意義とプラットフォーム機能－兵庫県内における環境に配慮したマルシェをケーススタディとして－（査読付）	共	2019年	農村計画学会誌，38巻3号，pp.390-396	豊嶋尚子・清水夏樹・星野 敏 農家が直接販売する仮説の店舗・市であるマルシェが，農家のコミュニケーション基盤としてのつながりを促進する場＝プラットフォームとなっているという仮説の元，兵庫県内の2つのマルシェを対象として，運営者，出店した農家の特性と出店の意義をヒアリングし，検証した。
4. 台湾における住民参加型グリーンツーリズムの発展と法制度－震災復興地域における中山間集落を事例に－（査読付）	共	2017年	農村計画学会誌，36巻論文特集号，pp.235-241	黄 琬恵・清水夏樹 地震災害を受けた台湾農村部の震災復興政策とツーリズムによる地域活性化の動きが連動していたことを現地調査より明らかにし，地域づくりの課題と必要な支援策を考察した。
5. 京都府下の農家民宿におけるインバウンドの実態に関する研究（査読付）	共	2017年	農村計画学会誌，36巻論文特集号，pp.235-241	岩崎萌汰・清水夏樹・星野 敏・鬼塚健一郎 京都府下で開業している農家民宿を対象にアンケート調査を行い，海外からの観光客受け入れのために求められるサービスや受け入れに対して不安に思うことを明らかにした。
6. 農家民宿群形成と継続の課題に関する研	共	2017年	農村計画学会誌，36巻論文特集号，	河村充起・星野 敏・清水夏樹・鬼塚健一郎 地域ぐるみで多くの農家民宿開業を進めている地域を対象に，開業

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
究－石川県能登町「春蘭の里」を事例として－（査読付）			pp.242-249	支援や運営継続のためにどのようなことが行われてきたか、今後必要な支援は何かを明らかにした。
7.農村景観に対する印象と意識の地域内外での差異に関する研究－訪問客の増加につながる効果的な情報発信に向けて－（査読付）	共	2017年	農村計画学会誌, 36巻論文特集号, pp.250-256	北山幸治・鬼塚健一郎・星野 敏・清水夏樹 地域外に発信される想定農村景観の写真を用いて、人々の景観への評価が地域内・地域外で異なるかどうかを検証した。写真は京都府内の農村観光地のものを用い、スポット（対象物）、ドローンで撮影した土地利用が俯瞰的にわかるもの、写っている建物等の要素や素材がわかるこのなどを用い、地域外の人々の訪問意欲を誘発する景観を明らかにした。
8.能登半島の社会生態生産ランドスケープ・ホットスポット評価（査読付）	共	2015年	ランドスケープ研究(オンライン論文集), 8, pp.31-36	橋本 禪・高力千紘・中村省吾・星野 敏・清水夏樹 人と自然とのかかわりに着目する社会生態学的生産ランドスケープを構成するホットスポットを、能登半島を対象とした把握し、空間分布や土地利用と里山環境の関係性を評価した。
9.中国農村地域におけるインターネット利用と住民の政府への信頼にとの関係に関する探索的研究（査読付）	共	2015年	社会情報学, 3(2), pp.1-14	包 薩日娜・星野 敏・橋本 禪・清水夏樹・張 明新 中国湖北省農村地域を事例に、農村地域においてネット利用が住民の政府への信頼に及ぼす影響及び関係について検討した。
10. Facebookを活用したワークショップの効果と課題－京丹後市五十河地域における取組を通じて－（査読付）	共	2014年	農村計画学会誌, 32巻, 4号, pp.507-516	鬼塚健一郎・萩原 和・星野 敏・清水夏樹・橋本 禪 農山村地域住民と企業セミナーに参加した人たちが行った新たなビジネスに関するワークショップにFacebookを用いて外部からも参加する試みを実施し、その効果と可能性を検討した。
11.農村地域住民の幸福度に影響を与える地域的な要因～石川県珠洲市における聞き取り調査の結果をもとに～（査読付）	共	2014年	農村計画学会誌, 33巻論文特集号, pp.299-304	田中里奈・橋本 禪・星野 敏・清水夏樹 農村地域に暮らす住民が何を幸せ・不満と感じているかをインタビュー調査により質的に把握し、規定要因とその傾向を明らかにした。
12.小水力発電の導入における土地改良区への対応能力と関係団体による支援の可能性－富山県を事例に－（査読付）	共	2014年	農業農村工学会論文集, 294, pp.9-17	伊藤孝史・橋本 禪・星野 敏・九鬼康彰・清水夏樹 近年再生可能エネルギーの一つとして注目されている小水力発電について、農業施設共同管理のための団体である土地改良区が管理する農業用水を利用した小水力発電への取り組みの実態を明らかにし、導入に向けた課題を考察した。
13.中国湖北省農村地域におけるインターネット利用意思の規定要因－総合技術受容モデルによる分析から－（査読付）	共	2014年	農村計画学会誌, 33巻, 1号, pp.54-62	包 薩日娜・星野 敏・橋本 禪・清水夏樹 中国湖北省農村地域を事例とし、総合技術受容モデル（UTAUTモデル：Unified Theory of Acceptance and Use Technology）を用いて、インターネット利用に対する農村住民個人の受容に影響を与える要因及び利用意思に影響を与える要因を明らかにした。
14. Global warming impacts of the process to utilize digested slurry from methane fermentation as a fertilizer: Case Study of the Yamada Biomass Plant（査読付）	共	2013年	Paddy Water Environment, Vol.12, 2, pp.295-299	Masato Nakamura, Yoshito Yuyama, Masaru Yamaoka, Natsuki Shimizu 有機性資源（バイオマス）のメタンガスエネルギー変換実証プラントで生成される副産物（消化液）を液肥として農地に散布した際の、窒素成分の作物吸収量や降雨による流出、分解されて大気に放出される温室効果ガスの発生量を測定し、環境への影響を予測した。
15.中国農村地域におけるインターネットの利用実態とその規定要因（査読付）	共	2013年	農林業問題研究, 49(1), pp.113-119	包 薩日娜・星野 敏・橋本 禪・九鬼康彰・清水夏樹 内蒙古農村地域を事例に、農村地域におけるインターネット利用の実態を分析し、その背景にあるインターネット利用群と未利用群の特徴を考察した。
16.農村地域におけるバ	単	2012年	ランドスケープ研	再生可能エネルギーの一つであるバイオマスエネルギーを農村地域

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
イオマス利活用システムの現状と可能性（依頼論文）			究, Vol.76, No.3, pp.197-200	において持続的に活用するために課題とされる、技術や産業の実態を整理した。
17. バイオマス活用における担い手別の経済性と地産地消効果（査読付）	共	2012年	農村計画学会誌, 31巻, 論文特集号, pp.207-212	清水夏樹・柚山義人・中村真人・山岡 賢 市町村単位で有機性資源（バイオマス）の発生からエネルギーとしての活用まで地産地消するシナリオを仮定し、関連産業の担い手の経営に与える影響を明らかにした。
18. コ・マネジメントからみた野生鳥獣被害対策における基礎自治体の役割と課題：－近畿6府県を事例に－（査読付）	共	2012年	農村計画学会誌, 32巻, 論文特集号, pp.281-286	岸岡智也・橋本 禪・星野 敏・九鬼康彰・清水夏樹 野生動物被害対策に関する問題を政府や地方自治体、被害発生地の住民などの多様な主体によるコ・マネジメントの問題として捉え、中でも行政が国・都道府県との連携でどのような対策を行っているのかを明らかにして課題を抽出した。
19. 台湾原住民部落スマグスの社区营造における教会と住民組織の関係：－センス・オブ・コミュニティを用いて－（査読付）	共	2012年	農村計画学会誌, 32巻, 論文特集号, pp.245-250	佐々木孝子・星野 敏・橋本 禪・清水夏樹 コミュニティに対して人びとが持つ多様な意識概念であるセンス・オブ・コミュニティに着目し、台湾の原住民が取り組んだ地域づくり（社区营造）との関係性を明らかにした。文化人類学的アプローチで農村計画学の課題に取り組んだ研究である。
20. 土壤汚染地域における長期休耕に影響を与える要因：－台湾彰化県北部を事例として－（査読付）	共	2012年	農村計画学会誌, 32巻, 論文特集号, pp.233-238	黄 琬恵・橋本 禪・星野 敏・九鬼康彰・清水夏樹 台湾の土壤汚染が多く見られる地域を対象に、汚染対策の一つである長期休耕の実施に影響を与える要因を、農家を対象としたアンケート調査により明らかにした。
21. 地域社会における飲料水管理の実態と課題：インド共和国アーンドラ・プラデシュ州農村部を事例に（査読付）	共	2012年	農村計画学会誌, 32巻, 論文特集号, pp.173-178	松本京子・星野 敏・橋本 禪・清水夏樹 インド農村部の地域社会における飲料水を対象に、飲料水の獲得と施設の管理状況について現地調査とインタビュー調査により把握し、地域の特徴を明らかにした。
22. 居住地域の特性が住民の主観的幸福度に与える影響（査読付）		2012年	農村計画学会誌, 32巻, 論文特集号, pp.167-172	田中里奈・橋本 禪・星野 敏・清水夏樹・九鬼康彰 物的・人的・社会関係・自然資本の4つの資本と地域住民の幸福度との関係性をもとに、アンケート調査を用いて、異なる地域特性（市街地・近郊部・山間部）が住民の幸福度に与える影響を分析した。
23. メタン発酵消化液の輸送・散布計画支援モデルの開発（査読付）	共	2011年	農業農村工学会論文集, 273, pp.89-96	山岡 賢・中村真人・相原秀基・清水夏樹・柚山義人 家畜排せつ物をエネルギーとして利用するための副産物であるメタン発酵消化液を肥料利用するための最適な輸送・散布計画のシミュレーションモデルを開発した。
24. エネルギー収支・経済性・環境負荷からみたバイオマス利活用シナリオの評価（査読付）	共	2010年	農村計画学会誌, 28巻, 論文特集号, pp.243-248	清水夏樹・柚山義人 有機性資源（バイオマス）の活用前と後の状況をシミュレーションし、エネルギー収支、経済性、温室効果ガスの観点から比較評価した。
25. 地域バイオマス利活用診断ツールの開発（査読付）	共	2010年	農業農村工学会誌, 266, pp.57-62	柚山義人・土井和之・中村真人・清水夏樹 市町村単位での有機性資源（バイオマス）利活用計画の妥当性を需給バランス、環境影響などから評価する診断ツールを開発した。
26. ライフサイクル的にみたバイオマス利活用評価の論点（査読付）	共	2010年	農業農村工学会誌, 266, pp.71-76	柚山義人・山岡 賢・中村真人・清水夏樹 廃棄物や未利用の有機性資源（バイオマス）の利活用システムを構築するための評価する際の論点を整理し、ライフサイクルでの評価が重要であることを指摘した。
27. メタン発酵消化液の液肥利用に伴う温室効果ガス排出量－山田バイオマスプラントを事例として－（査読付）	共	2009年	農業農村工学会資源循環研究部会論文集, 5, pp.1-14	中村真人・阿部邦夫・相原秀基・柚山義人・山岡 賢・清水夏樹・折立文子 有機性資源（バイオマス）のメタンガスエネルギー変換実証プラントで生成される副産物（消化液）を液肥として農地に散布した際の温室効果ガスの発生量を測定し、環境への影響を予測した。
28. メタン発酵消化液の輸送・散布の計画支	共	2009年	農業農村工学会資源循環研究部会論	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
援モデルの構築とモデルケースの試算（査読付）			文集, 5, pp.41-55	山岡 賢・柚山義人・中村真人・清水夏樹・折立文子 バイオガス生成過程で副産される消化液を効率的に分散する農地で肥料利用する際の輸送経路や中間貯留施設の必要性を輸送モデルから明らかにした。
29. バイオ燃料生産のための資源作物生産特性の評価（査読付）	共	2009年	農業農村工学会誌, 77(8), pp.11-14	清水夏樹・柚山義人・中村真人 過去に作成したデータベースや栽培実証試験結果から、バイオ燃料生産1L当たりの栽培に必要なエネルギーや労働力など、わかりやすい単位でのバイオ燃料原料となる資源作物の生産特性を示した。
30. 都市近郊農畜産業型のバイオマス利活用実証研究の成果と展望（査読付）	共	2008年	農業農村工学会資源循環研究部会論文集, 4, pp.131-147	柚山義人・中村真人・山岡 賢・清水夏樹・阿部邦夫 畜産業と水稻・畑作物の生産が盛んな都市近郊農村において実施中の有機性資源（バイオマス）の再資源化・エネルギー変換実証研究の計画と実施状況を示した。
31. 消化液を液肥利用するメタン発酵システムによる温室効果ガス削減効果（査読付）	共	2008年	農業農村工学会誌, 76(11), pp.13-16	中村真人・柚山義人・山岡 賢・藤川智紀・清水夏樹 家畜排せつ物をエネルギーや肥料原料として変換する実証施設を対象として、活用システムの温室効果ガス削減効果を計測・算定した。
32. 環境に配慮した農法のエネルギー消費分析と経営実態—千葉県北東部における栽培事例より—（査読付）	共	2007年	農村計画学会誌, 26巻, 論文特集号, pp.365-370	清水夏樹・柚山義人 「エコ」農産物の基準の一つとして提案されている低エネルギー消費栽培の実態を実態調査と経営分析によって検証した。
33. バイオマス利活用における資源作物生産の評価視点（査読付）	共	2006年	農業土木学会資源循環研究部会論文集, 2, pp.103-113	清水夏樹・柚山義人 エネルギー原料となる農作物の生産・利用の実現可能性について、日本各地での取り組み状況を例に、エネルギー収支、環境への影響、経済性、耕作放棄地の復旧等の視点でとりまとめた。
34. 農村計画研究における「範域」の捉え方（査読付）	共	2005年	農村計画学会誌, 24(1), pp.24-35	清水夏樹・唐崎卓也・栗原伸治・斎尾直子・島 武男・清水 庸 農村計画に関わる複数の分野での生活や生産などの空間がどのように研究されてきたかを複数の研究者がレビューし、共同研究としてとりまとめを行った。
35. 輸送問題からみたバイオマス利活用（査読付）	共	2005年	農業土木学会誌, 73(12), pp.29-33	柚山義人・森 淳・中村真人・清水夏樹 有機性廃棄物の発生源から再資源需要先までの輸送ルートをシミュレーションし、マイレージ（リソースマイル）として指標化した。
36. 有機性資源の利活用推進方策（査読付）	共	2004年	農業土木学会誌, 72(8), pp.13-18	柚山義人・森 淳・中村真人・清水夏樹 廃棄物としてみなされてきた有機性資源（バイオマス）を再資源化しビジネス活用するための留意点と制度設計の在り方を示した。
37. 中山間地域の地域性に対応した農村基盤の持続的管理（査読付）	共	2002年	農村計画論文集, 21 巻, 21-suppl 号, pp.181-186	清水夏樹・佐藤洋平 国内の中山間地域市町村を都市からの距離と土地の傾斜によって3類型化し、各類型の条件とそれに基づき優先的に解決すべき課題を評価・提案した。
38. EXPLORATION AND ANALYSIS OF SOCIO-ECONOMIC POTENTIALS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT IN RURAL EGYPT USING GIS TECHNOLOGY（査読付）	共	2001年	農村計画学会論文集, 20巻, 20-suppl 号, pp.175-180	Abdel-Samad M. ALI, Yohei SATO and Natsuki SHIMIZU エジプトの農村を対象に農村開発の社会経済的可能性をGIS(地理情報システム)を用いて空間的に分析した。
39. 中山間地域における農地の地域的管理—竹田市九重野地区における事例—（査読付）	共	2001年	農村計画学会論文集, 20巻, 20-suppl 号, pp.193-198	清水夏樹・佐藤洋平 日本の中山間地域の中でも農業生産条件の比較的良好な地域で、農地管理システムが維持されるためのシステムについて事例調査を基に示した。
40. 都市近郊農業地域における平地林の減少要因（査読付）	共	2000年	農村計画学会誌, 18(4), pp.265-274	清水夏樹・佐藤洋平 都市近郊農村の貴重な緑地である二次林（平地林）の1970年時点からの消滅・現存状況をGIS（地理情報システム）を用いて把握し、その要因を明らかにした。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
41. 山間農業集落における農業・農村基盤の維持・管理ー山形県大江町を事例としてー（査読付）	共	2000年	農村計画学会論文集, 20巻, 19-suppl 号, pp.259-264	清水夏樹・佐藤洋平 過疎高齢化の進む山間地域の農業・農村基盤構成要素を定義し、それに基づいて山形県山間地域の実態を報告した。
42. 中山間地域資源の維持・管理システム（査読付）	共	1999年	農村計画学会論文集, 18巻, 18-suppl 号, pp.301-306	清水夏樹・佐藤洋平・山路永司 日本の中山間地域の地域資源の捉え方を概念的に提示し、全国の市町村を対象とした統計データ分析によって実証を試みた。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 「豊かな森林資源を活用した山村地域の新たなチャレンジ」	単	2019年12月18日	Agricultural Policy Research Center, Taiwan主催, International Conference on Green Economy in the mountain villages	台湾, 台北市のMOTC Convention Hallで開催された山間地域のグリーン経済に関する国際会議において, 日本の林業・山村の現状と課題を紹介するとともに, 自身が行う森里海連環学にもとづく産官学の連携, つながり社会実装の研究について報告した。
2. Urban lifestyle and agriculture: Public projects and policy in Kyoto	単	2017年1月27日	International Multidisciplinary Symposium in Comparative Urban Studies (Dublin, Ireland)	アイルランド・ダブリンのトリニティカレッジで開催された日本とアイルランドの比較都市研究会において, 京都府・大阪府の都市内農地を活用した学校農園や福祉農園の実態と政策的支援について, 招待講演者として報告。
3. 「農村基盤をまもるしくみづくり」	単	2003年12月12日	農村計画学会2003年秋季シンポジウム「農山村における環境管理の新しい形とその展望」	神戸大学瀧川記念学術交流会館で開催されたシンポジウムについて, 講演, 総合討論においてパネリストとして発言した。
2. 学会発表				
1. Rural Revitalization Program With/Post-Covid-19 Case study of Tambasasayama city	単	2022年11月4日	日韓農村計画学会交流セミナー（ソウル大学メインキャンパス）	丹波篠山市を事例として, コロナ禍により地域行事が減少している中, 人口減少・高齢化の進んだ地域であっても, 大学等との連携により活力を維持していることを, 自治会（集落）単位でのアンケート・ヒアリング調査から明らかにした。
2. Role of the Land Improvement District to Promote Various Actors' Participation in the Sustainable Tea-farming: A Case Study in the Northern Yamato-Highland Land Improvement District (ポスター発表, Abstract ピアレビュー有り)	共	2018年11月20日～28	PAWEES-INWEPF International Conference Nara 2018 〈奈良春日野国際フォーラム〉	Natsuki Shimizu and Yoshika Yamamoto 国営事業により農地造成やダム等の基盤整備が行われた大和高原北部地区における生産者・国・地方自治体・大学がどのように連携してきたかの経緯と, 各主体の協働に向けたニーズを明らかにした。
3. Interdisciplinary of the CoHHO study-How Researchers Consider Interdisciplinary	単	2018年9月27日	The 2nd International Symposium on Formulation of the Cooperation	森里海連環学に関わる研究者, 約10名を対象に, 研究対象・関心および森里海連環に対する考え方をワークショップ形式で調査し, その結果を, 主観的な分類と客観的な分類（ネットワーク分析結果）とで比較した。学際融合への考え方は, 研究分野によって大きく異なることがわかった。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
of the CoHHO Study?- (ポスター発表)			Hub for Global Environmental Studies in the Indochina Region & The 9th Inter-University Workshop on Education and Research Collaboration in the Indochina	
4.A Study on the Tea Farming Types for Considering Sustainable Local Resource Management on the Yamato-cha, Nara Prefecture (ポスター発表)	共	2017年10月30日～11月1日	HUST & KU International Symposium on the Education & Research of the Global Environmental Studies in Asia in conjunction with the 10th Regional Conference on Environmental Engineering, Hanoi, Vietnam	Yamamoto, Yoshika, Shimizu, Natsuki 奈良県北東部の大和高原で生産される茶の多くは宇治茶として販売されるが、地域では「大和茶」としての独自のブランド化が望まれている。生産者へのインタビュー調査により出荷体系やそれらが決まるまでの経緯、また、生産者の意識などを明らかにし、地域ブランド化に向けた課題を提示した。
5.The Evolution of Ecotourism: Concept and Meaning to CoHHO (ワークショップでの講演)	単	2016年11月13日	The 11th Inter-University Workshop on Education and Research Collaboration in the Indochina Region, Pre-workshop of International Symposium on Global Environmental Studies and Research in Asia, Bangkok, Thailand	エコツーリズムの歴史と現代的意義をひもとき、森里海のつながり(連環)を実現するために求められる要件を、いくつかの事例を元に解説した。
6.過疎化・高齢化農村集落の帰農・帰村と空家活用の事例	単	2014年10月15日	日韓の農村計画分野における専門家共同セミナー(韓国農村経済研究院, ソウル, 韓国)	韓国においても課題となっている過疎高齢化の進んだ農山村地域の空家活用とI・Uターンについて、日本の事例を紹介した。
7.Lessons from evaluation trials of biomass utilization in suburban agricultural and livestock industrial areas (口頭報告)	共	2009年12月8日	International Workshop on Life Cycle Assessment for Biofuel Production and Biomass Utilization, Tsukuba, Japan	Natsuki Shimizu and Yoshito Yuyama 千葉県北東部の農村部における家畜排せつ物を中心としたバイオマス賦存量とその利用可能量(堆肥化による農地施用)の比較シナリオを示し、実現に向けた解決すべき課題を明らかにした。
8.バイオマス燃料原料	共	2009年	平成21年度農業農	清水夏樹、柚山義人、中村真人

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
としての多収米栽培におけるエネルギー収支と経済性			村工学会大会講演会講演要旨集, 掲載ページ不明	バイオ燃料の原料となる米の実圃場での栽培試験による農業機械の燃料消費量、投入資材量・価格、労働時間等の調査結果からエネルギー収支と経済性について報告した。（農業農村工学会農村計画研究部会奨励賞受賞）
3. 総説				
1. 「研究」成果の行き先を考える	単	2015年	農村計画学会誌, Vol. 34, No. 2, pp. 128-131	農村計画学が抱える「研究と計画と実践」のトリレンマに対し、自身が行ってきた研究・計画・実践および教育について論考した（特集論考）。
2. バイオマス利活用による地域活性化とは？	単	2013年	JACEM, 一般社団法人農業土木機械化協会, No. 57, pp. 5-11	技術者向けに有機性資源（バイオマス）の利活用と地域活性化に関わる政策や経済的課題を解説した。
3. エネルギー農作物の栽培から収穫に要するエネルギーの実態と課題	単	2011年	環境技術, Vol. 40, No. 6, pp. 25-30	バイオ燃料の原料となる農作物の栽培やと利用について、エネルギー収支、経済性、環境への影響、農村社会への影響を整理した。
4. 地域バイオマスの持続的利活用システム	共	2009年	環境情報科学, 38 (3), pp. 38-42	柚山義人、中村真人、清水夏樹 地域（市町村）を単位とした有機性資源（バイオマス）の利活用システムを持続可能にするために考慮すべき点を整理した。
5. 資源作物生産とそのバイオ燃料利用についての評価の視点	単	2007年	環境技術, Vol. 36, No. 12, pp. 18-23	バイオ燃料の原料となる農作物の栽培や利用について、エネルギー収支と経済性、技術的実現可能性など考慮すべき点を整理した。
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 座談会 若者たちは何を求めて地方をめざし、農山村社会をいかに変革しうるか	共	2022年	季刊「農業と経済」2022年夏号, pp. 57-78	特集「若者と創る農山村イノベーション」において、稲垣文彦氏、多田朋孔氏、中島信男氏、秋津元輝氏（司会）とともに、座談会を行った記事。
2. 持続可能な茶業をめざした地域資源マネジメント②ー該当アンケート調査をふまえた大和茶パッケージ開発ー（査読付）	共	2019年	平安女学院大学研究年報, 19, pp. 21-30	山本芳華・清水夏樹 「大和茶」の普及イベントの際に行った消費者アンケート調査結果のうち、年齢による差異に注目して分析をし、それに基づきパッケージデザインの制作・販売を試みた結果を報告した。
3. 書評：佐藤一子・千葉悦子・宮城道子編著『〈食といのち〉をひらく女性たちー戦後史・現代、そして世界ー』	単	2018年	農村計画学会誌, Vol. 37, No. 3, pp. 331	12名の女性執筆による食・農業に関わる女性たちの活動を報告した書籍を、地域での主体形成、社会参画の観点から評した。
4. 持続可能な茶業をめざした地域資源マネジメントー大和茶普及イベントを通じた商品開発の動向把握についてー（査読付）	共	2018年	平安女学院大学研究年報, 18, pp. 34-42	山本芳華・清水夏樹 奈良県北東部の大和高原で生産される「大和茶」の普及イベントを行政や生産者と協働して実施し、その際に行った消費者アンケート調査の結果を分析した。また、地域との協定に基づいた商品開発の成果を報告した。
5. 「人」にこだわる地域・事業コーディネート（依頼報文）	単	2017年	水土の知, 85 (11), pp. 3-6	地域・事業コーディネート力による地域活性化について、自身の経験や実績をもとに配慮すべき点や具体的な方法を述べ、コーディネート力発揮のために必要なことを論じた。農業農村工学会2019年度優秀報文賞受賞。
6. 「つながりの場ー里山」をつくり、守る	共	2014年	農村計画学会誌, Vol. 33, No. 1, pp. 2-3	清水夏樹・長谷川路子 近江八幡市における里山管理について学生実習と地域の取り組み取材を基に「森よし、里よし、湖よし」の「三方よし」を提案したエッセイ。
7. バイオマス利活用システムのライフサイ	共	2012年	農工研技報, 212, pp. 97-126	清水夏樹・柚山義人・中村真人・山岡 賢 家畜排せつ物や生ごみなどの有機性資源（バイオマス）を肥料やエ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
クルを対象としたエネルギー収支の評価（査読付）	共	2012年	農工研技報，212，pp.53-96	ネルギー原料として変換利用する技術を含めた5つのシナリオを仮定し，ライフサイクルでのエネルギー消費量と精製できるエネルギーの収支を試算した。
8. バイオマス活用システムのライフサイクルを対象とした経済性の評価（査読付）				清水夏樹・柚山義人・中村真人・山岡 賢 家畜排せつ物や生ごみなどの有機性資源（バイオマス）を肥料やエネルギー原料として変換利用する技術を含めた5つのシナリオを仮定し，ライフサイクルでの経済収支と外部経済効果を試算した。
9. メタン発酵プラントのトラブル記録と長期運転データの解析－山田バイオマスプラントを事例として－（査読付）	共	2010年	農工研技報，210，pp.11-36	中村真人・柚山義人・山岡 賢・折立文子・藤川智紀・清水夏樹・阿部邦夫・相原秀基 農林水産省事業で建設した有機性資源（バイオマス）のメタンガスエネルギー変換実証プラントの建設時から長期運転に至るまでの記録から，設計や運転の際に留意する点を明らかにした。
10. 中国圏・四国圏広域地方計画に対する提言	共	2009年	農村計画学会誌，Vol. 28，No. 2，pp.96-97	清水夏樹・上野裕士・小田切徳美・清水 庸・日鷹一雅・山路永司・吉田晋一 新たな国土形成計画の決定に当たり，農村計画学の研究者の立場から，考慮・優先すべき課題について検討し，提案を行った。
11. 資源作物生産特性データベースの整備（査読付）	共	2009年	農工研技報，209，pp.29-56	清水夏樹・柚山義人・中村真人 国内で生産可能な10種類のエネルギー原料となる作物について，生産のための資材や労力，設備やコストおよび生産量のデータベースを作成した。
12. 有機性資源の利活用を促進するための支援策（査読付）	単	2005年	農業工学研究所技報，203，pp.47-56	乳牛・肉牛の飼養により発生する排せつ物を堆肥化して有機農作物生産の肥料に利用し，それらの農作物を効果的に販売するまでを段階に分け，各段階の担い手にどのような支援策が必要であるか，効果的であるかを検討した。
13. 空気も水も里山も－人間の暮らしは本来入会的なものだった（福島県郡山市・後藤克己さん）	単	2002年	増刊現代農業2002年5月号『新ガーデンライフのすすめ』，農山漁村文化協会，pp.201-207	福島県山間部で養蜂業を営む後藤氏を取材し，地域の里山の管理や慣習，地域活動の歴史的変化について「入会」の概念に基づいて聞き取った。
14. 中山間地域研究における多角的視点	単	2002年	農村計画学会誌，21(2)，pp.183	農村計画学会において中山間地域を対象として研究する若手研究者を代表して，近年の研究動向と論ずべき視点を述べた。
15. 中山間地域における農業・農村基盤の持続的管理（査読付）	単	2002年	東畑二郎記念研究奨励事業報告，27，pp.1-59	「東畑二郎記念研究奨励事業」に採択され研究補助および公開されたものである。国内の中山間地域のうち，アクセシビリティの低い市町村を平均傾斜で2グループに分け，各グループにおける農業・農村基盤の持続的管理の概念モデルに従い，事例調査により実証を試みた。
6. 研究費の取得状況				
1. VUCA時代に対応する「こころ」の農村計画学構築にむけた総合的研究	共	2021年～2024	科学研究費基盤研究(A)（代表：中塚雅也(神戸大学)）	(分担) 2024年度は研究協力者として参画) 農村計画学がこれまで取り組んできた問題解決型・規範型の地域づくりに，「こころ」に関する心理的資本の概念を導入し，新たな農村計画学を構築することを目的とする。現場における実践的な資本の計測と制度・政策への展開を分担した。
2. 大規模災害へのレジリエンスを考慮した臨海農業集落の存続可能性評価軸の創生	共	2019年～2022	科学研究費基盤研究(B)（代表：服部俊宏(明治大学)）	(分担) 臨海農業集落について，平時の存続可能性評価と共に大規模災害に見舞われた際のレジリエンスについても検討を行った。類型化，存続基盤の抽出方法に関するこれまでの研究業績を踏まえ，大分県国東半島を分担し，過去の水害と土地利用変化の関係を明らかにした。
3. 臨海農業集落の存続基盤の明確化と類型化手法の確立	共	2016年～2018	科学研究費基盤研究(C)（代表：服部俊宏(明治大学)）	(分担) 2014～2015年度の挑戦的萌芽研究を受け，多様性に富む臨海農業集落を類型化し，特徴に応じた存続基盤を明らかにすることを目的とした。岡山県笠岡諸島の調査を分担した。
4. 低窒素型農畜産業を軸とした食料循環に関する学際研究	共	2015年～2017	科学研究費基盤研究(B)(特設分野研究)（代表：吉野章(京都大学)）	分担) 低窒素型農畜産業への転換の可能性とそれを実現するための食料循環のあり方を検討するため，植物栄養学，土壌圏生態学，環境マーケティング等の研究成果を統合，実証対象地である南あわじ市での地域農業と窒素循環の分析を担当した。
5. 臨海農業集落における存続可能性評価シ	共	2014年～2015	科学研究費挑戦的萌芽研究（代表：	(分担) 半農半漁の性格を有する臨海農業集落の地域構造と地域存続要因を明らかにすることを目的とし，アジア地域での研究事例の調

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
システムの開発				
6. 臨海農業集落における存続可能性評価システムの開発	共	2014年～2015	服部俊宏(明治大学)) 科学研究費挑戦的萌芽研究(代表: 服部俊宏(明治大学))	査分析, 石川県七尾市能登島, 岩手県陸前高田市の実態調査を担当した。 (分担) 半農半漁の性格を有する臨海農業集落の地域構造と地域存続要因を明らかにすることを目的とし, アジア地域での研究事例の調査分析, 石川県七尾市能登島, 岩手県陸前高田市の実態調査を担当した。 (分担) モンスーンアジア地域における農村において普遍性のある新たな比較農村計画学を確立することを目的として, 国別・テーマ別の調査および考察を行った。このうち, 台湾におけるエコツーリズムを担当し, 日本における教育環境旅行との共通性や地域振興施策の相違点を明らかにした。
7. モンスーンアジア農村地域の持続的発展と比較農村計画学の確立	共	2014年2017年	科学研究費基盤研究(B)(海外学術調査)(代表: 山路永司(東京大学))	
	単	2002年8月	2002年度昭和シェル石油環境研究助成	
8. 都市ー農村交流の推進における女性の役割ー大分県竹田市若葉会を事例としてー	単	2002年6月	平成14年度矢口光子記念研究奨励事業	
		2000年8月	2000年度昭和シェル石油環境研究助成	
9. 中山間地域における農業・農村基盤の持続的管理	単	2000年8月	平成12年度東畑四郎記念研究奨励事業	
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		
1. 2024年4月～現在		農村計画学会22期評議員		
2. 2022年4月～2024年4月		農村計画学会企画委員会(委員長)		
3. 2022年4月～2024年4月		農村計画学会21期理事		
4. 2020年4月～2022年4月		農村計画学会20期理事		
5. 2020年4月～2022年4月		農村計画学会 21期企画委員		
6. 2018年4月1日～2019年3月31日		PAWEES-INWEPF国際会議 奈良2018 サイエнтиフィック・コミッティー委員		
7. 2018年4月～2020年4月		農村計画学会19期評議員		
8. 2018年1月～2018年12月		平成30年度農業農村工学会大会実行委員会委員		
9. 2017年6月～2021年3月		農業農村工学会農村計画研究部会 代表幹事		
10. 2015年4月～2021年3月		農業農村工学会農業農村整備政策部会 部会誌編集担当幹事		
11. 2014年9月～2023年3月		日本環境共生学会 学術・編集委員		
12. 2012年4月～2018年4月		農村計画学会18期評議員		
13. 2010年4月～2014年4月		農村計画学会学術交流委員		
14. 2006年4月～2010年4月		農村計画学会査読委員		
15. 2002年4月～2006年4月		農村計画学会編集委員		